

# 学力向上フロンティアスクール用中間報告

都道府県名

山梨県

## I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	田富町立田富南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	合計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	22
児童数	52	47	60	48	43	52	0	302	

## II 研究の概要

### 1. 研究主題

『主体的に生き生きと学習する児童の育成』

### 2. 研究内容と方法

#### (1) 実施学年・教科

○算数: 児童の状況に差が出やすい教科であり、TTの様々な授業法と教材の開発をするため

#### ・1学年・算数

☆TTの形式(授業の掌握度) T1(担任)=T2(担任)=T3(担当)(少人数学習)

予備テストの実施や全体指導等の過程で理解の程度を評価し、その結果に基づいた学習集団を編成して、T1、T2、T3の役割を明確にした指導をする。学習集団編成に当たっては、子ども自身がどのグループに所属すればよいか、分かり易いように工夫して実施する。

#### ・2学年・図工

#### ☆「とっておきのドキ(紙版)」

ドキドキしながらものをじっと見たり強く感じたりするその児童らしいとっておきの感動体験を大切にしながら、その内容をもとに構想を絞りあげ、つくり、工夫を楽しむ過程によって自己実現に迫ることを目標とし、一人一人の持っている造形力を発揮し、ふさわしい造形の言葉で物語るようなイメージを具体化した「紙版」による表現の創造

#### ・3学年・算数

☆TTの形式(授業の掌握度) T1(担任)=T2(担任)=T3(担当)

小人数別学習指導 習熟度別指導

) Aグループ: 発展的学習課題、Bグループ: 習熟的学習課題

Cグループ: 基礎的学習課題

#### ・4学年・算数

☆TTの形式(授業の掌握度) T1(担任)≦T2(担当)

T2は、通常の授業の教師の役割を担う。学級の全体の児童に対して、基本的な内容についての一斉指導をするとともに、場面によっては個別指導をする。

T1は、机間指導を中心に、子ども一人一人の学習状況をとらえて、特につまづきがちな子どもへの個別指導を主に行なう。解法により、学級2分の後は、各担当の集団の指導・支援を行なう。

・音楽 ☆『基礎学力向上やまなシプラン』指定を受けての検証授業と研究会

☆TTの形式(授業の掌握度) T1(担任)=T2(担当)

(一斉→グループ学習)

一斉学習から、グループごとに児童の希望・興味関心によって割り当てられた楽器による合奏練習と本時練習成果の発表。

#### ・5学年・算数 (研究授業第1回)

☆TTの形式(授業の掌握度) T1(担任)> T2(担当)

T1は、通常の授業の教師の役割を担う。学級の全体の児童に対して、基本的な内容についての一斉指導をするとともに、場面によっては個別指導をする。

T2は、机間指導を中心に、子ども一人一人の学習状況をとらえて、特につまづきがちな子どもへの個別指導を主に担当して行なう。

・音楽

児童にヒトとして望ましい「基礎学力」を身に付けさせる一環としてふさわしい「音楽科」授業の創造を目標として、開発された学習教材による授業提案と、目標達成に必要な不可欠な二つの課題的要の再確認。

#### ・6学年・算数

☆TTの形式(授業の掌握度) T1(担任)≧ T2(担当)

T1、T3が協力して全体指導を行った後に、適用問題を提示し、その解決に際して、複数の教師が机間巡視により、指導・助言の必要な子どもに個別に指導する。個別指導に際しては、担当する子どもを分担しておくと言われている方法。

#### (2) 年次ごとの計画

#### ○テーマ

本校児童に育てたい「確かな学力」として、様々な工夫により従来の「伝統的な学力」に、表現力や思考

力といった「見えにくい測りにくい学力」、学習意欲・学習スキル・自己評価力といった「学ぶ力としての学力」および「基本的な生活能力」を、あくまでも同じ重きの中での有機的な統合を目指す。

平成15年度

○研究仮説

本校独自の特色を生かし、学級実態を適切に反映した、既成様式にとられない「個に応じた指導」のためのTT指導法と教材を工夫・開発することにより、従来の一斉授業の範疇を越え、児童一人一人の力と個性を生かし、基礎的・基本的学力を向上させることのできる授業の創造が可能になるであろう。

○研究の内容・方法

- I) 様々な形態によるTT授業等による「算数科」を中心とした積極的な授業提案・研究授業の実施。
- II) 学習意欲を喚起する諸条件を整備することにより、児童自身が意欲持って、取り組むことができる教材の工夫と学習プリント・ドリル作製および様々な場面での活用。
- III) 喜びに溢れた楽しい音楽科授業の創造・提案と学校に音楽が活かされ、児童の毎日の生活を明るく、楽しい雰囲気を生み出すための工夫と意欲的活動の実施。
- IV) 上記以外での、研究課題を一般化するための本校の取り組み・活動の実施

平成16年度

○テーマ

平成15年度と原則的に同じ予定。

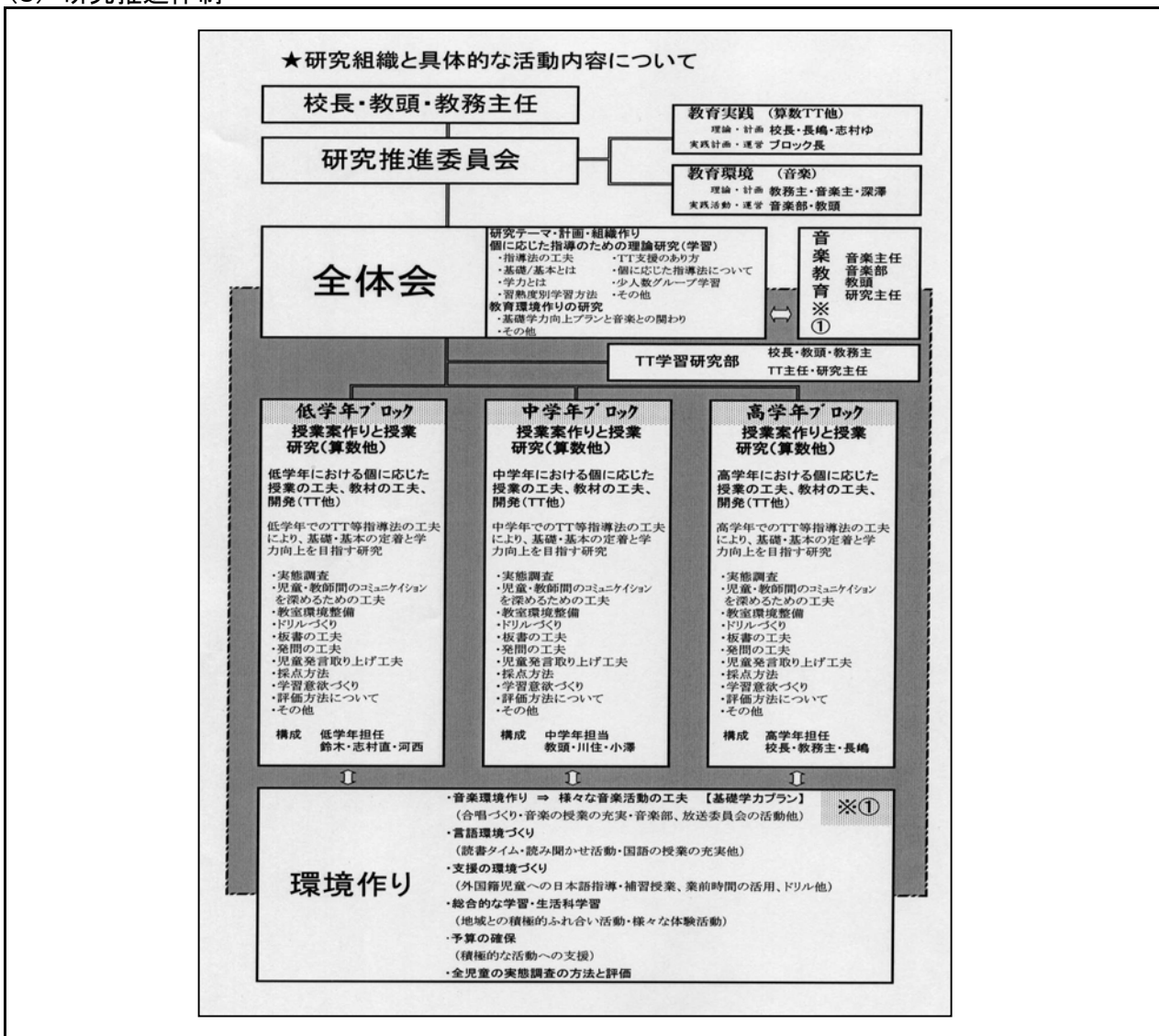
○研究仮説

平成15年度と原則的に同じ予定。

○研究の内容・方法

平成15年度と原則的に同じ予定だが、今年度は、「II)」のオリジナル学習プリント・ドリルの完成を目指す。

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

・様々な学年・場面・教材等を使い、様々な形式の「T・T」および「少人数(グループ)学習」の授業法に実際に取り組むことにより、効果的な授業法及び問題点等を実際に明らかにすることができた。このことは実際に目の前の児童の実態に合わせ、授業の組み立てを再構築するのに大きな意味があったと考える。

- ・漏らさず、確実に支援してもらえることが児童に理解され、意欲的に学習(授業)に取り組む姿勢の児童が多数を占めてきたことは非常に大きな意味がある。

## 2. 今後の課題

- ・まず視覚で「心」をつかみ、次に主目的の「学習内容」を学級児童全員につかみ易くするため、よく考えられた(半)具体物の利用は有効である。特に算数が不得意と思いつている児童の顔を前に向かせ、心を開かせるのに大きな力を発揮する。今後ますます工夫を重ねていくべきである。
- ・TT授業におけるT1・T2の果たす役割分担は、密度の濃い「事前打ち合わせ」実施により、前もって明確に把握され、例えば一斉指導の場面でのT2の重きを増やすことで、T2が説明して時、T1は児童の反応や表情を観察しながら、次の一斉指導の場面での有効な手立てを練る余裕を生み出すことができる。
- ・わからない(理解度不足)児童への対応を『教室外(ワークスペース)』で小黒板と具体物の縮小版等を利用して行なうことで、普段から負い目を感じている児童が、周囲を気にせずに、学習に集中できる。余計な神経を使わないで学習に集中できるという利点は、今後も活かしてゆくべき。
- ・一斉授業で利用しているプリントを素早く消化した「理解が進んでいる・力のある・塾で既に学習している」児童が、手持ち無沙汰になった場面に、自分の意思で気軽に取り組むことのできる、副教材やドリル・プリント類は、十分に用意されていたほうが確実に能率的である。
- ・設定できる「コースの数」は、いずれの場合でも、教師の数によって限定される。  
⇒ 個別対応への限界＝課題や場面等がかわるたびに、少なからずロス時間が生ずる。積み重ねると相当な負担となる。もちろん担任一人だけでは、十分な対応は到底無理である。
- ・少人数学習実施の場合、在籍する児童の「学力」に、大きな個人差がある。「底辺」の底上げを目指すためには、そのコースへの教師の常駐は欠かせないであろう。
- ・学力の高い、力のある児童を、ある教科に「飽きさせず、興味を失わせることなく」取り組みを持続させるためには、その児童に「相応しい問題と、採点・指導の場」が確保できているならば、本人の納得できる部分まで進むたび、児童の側から教師の所へやって来てくれるのではないだろうか。

## IV 学力把握のための学校としての取組

- ・知能テスト 3年 5年  
  教研式 新学年別知能検査
- ・学力テスト 全学年  
  教研式 標準学力検査 CRT 目標規準準拠検査

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開授業研究会の実施
- ・「山梨県学力向上推進協議会」「地区学力向上推進協議会」等において成果を発表する。
- ・ホームページへの掲載や、冊子の作成等により、実践研究の成果を積極的に公表する。
- ・本年度研究の全容を、CD-Rで希望校に配布する。等

~~~~~

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                                                                                           |                                                                                                       |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校                                            | <input type="checkbox"/> 15年度からの継続校                                                                   |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下<br><input type="checkbox"/> 13～18学級                        | <input checked="" type="checkbox"/> 7～13学級<br><input type="checkbox"/> 19～25学級                        |
| 【指導体制】               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導<br><input type="checkbox"/> 一部教科担任製             | <input checked="" type="checkbox"/> T.Tによる指導<br>その他                                                   |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語<br><input type="checkbox"/> 生活<br><input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 社会<br><input checked="" type="checkbox"/> 音楽<br><input type="checkbox"/> その他 |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 算数<br><input checked="" type="checkbox"/> 図画工作        | <input type="checkbox"/> 理科<br><input type="checkbox"/> 家庭                                            |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有                                                     | <input type="checkbox"/> 無                                                                            |